



# みどりの風



令和4年5月26日発行

## よい習慣は自分の大きな強みになる

校長 安藤晋哉

5月12日、13日に3年生を対象とした「上級学校（高校）説明会」が開催されました。その際、多くの高校の先生から3年生の態度についてお褒めの言葉をもらいました。具体的には、「挨拶が素晴らしい」、「みんな集中して熱心に聞いてもらった」ということでした。3年生の進路に対する意識の高さを感じるとともに本校のよさを各高校の先生方に印象づけ、本校の魅力を発信してくれたことを誇りに思います。

3年生が体育館で説明を聞いている間、校長室では、高校の先生方と話す機会がありました。そのとき、高校の先生に「中学生はこれから自分の人生を切り拓いていくこととなりますが、どんな力を身に付けるとよいのでしょうか。」と尋ねてみました。

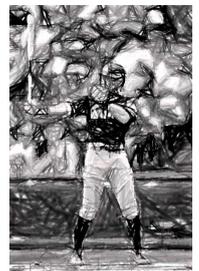
先生方は、次のようなことを話されました。

学力があることに越したことはない。他にも大切なことがある。

- ・毎日、休まず登校することや遅刻・早退がないこと
- ・目標、目的をもって生活すること（例えば、多くの資格を取得したり、部活動に熱中したりするなど何か一つのことに一生懸命に取り組むこと）
- ・日常生活で、元気に挨拶すること、整理整頓をしっかりとすること、自分で決めたことを最後までやり続けることなど

私はこの話を聞いて、元メジャーリーガー「イチロー」選手が目に見えてきました。皆さんも知っているとおおり、彼は2019年（平成31年）3月に引退しましたが米通算28シーズンをプレーし、世界記録の安打数4367本、最多試合出場3607試合を記録した野球選手です。

イチロー選手の試合に向けてのこだわりは特徴的でした。彼は、渡米後、ホームゲームの時は、毎日欠かさず朝昼兼用の食事にカレーを食べてきました。それも奥さんの手作りのカレーを同じ時間に食べたそうです。そして、チームメイトより2時間も早く球場入りして、念入りに準備運動、マッサージ、相手チームの研究…といった同じメニューをこなしました。試合になると自分の2つ前のバッターが打席に入った瞬間から手袋を手にはめて、自分が打席に立つまでのルーティンの一つずつこなしていきました。そして、その仕上げが相手投手に向けバットを立てるという動作。たかだか数分間の勝負のために、朝からのすべての行動を計算し、完璧に習慣化しているのです。



【打席に立つイチロー選手】

よくイチローの武器はセンスとか、身体能力とかいう天性の素質をあげて人がいましたが、実はこうした確実な習慣づくりが最大の武器であったと思います。

生徒の皆さんは、学校で同じことを繰り返していることがあります。「立ち止まって挨拶」「1分前着席チャイム黙想」「無言清掃」「毎時間の授業」、家では、「手伝い」「家庭学習」など考えればいくつもあります。これらの中で、「自分で△△を〇〇すると決め、そのことをやり続ける」ことができれば、そのことが大きな自信と強みになります。最終的には、イチロー選手のように自分にとって最大の武器になるのではないのでしょうか。これからの時代を生き抜き、人生を切り拓くためには、知識や技能、思考力・判断力・表現力など大切なことはたくさんありますが、自分で決めたことをずっとやり続ける力（粘り強さ）が求められていると私は考えます。

### 令和4年度 保護者への協力依頼事項

今回は、子どもたちの自立と健やかな成長を促すために、家庭で取り組んでいただきたいことをまとめてみました。少し多いかもしれませんが、できることからでいいので、1年間、継続して取り組んでいただきますようお願いいたします。

- **子どもの自立を意識した子育て**  
例:子どもにさせる（家庭で役割を与える）
- **子どものよさを見つけ、伸ばす**（褒める・叱るの両道）
- **基本的な生活習慣の確立**  
例:早寝・早起き・朝ごはん、決められた手段での登校等
- **メディア・ネット利用への対応**（ルール、フィルタリング）
- **家庭学習の見届け**（決まった時間・場所で、計画的に）
- **体力づくり、健康管理** → 特にむし歯治療の年度中完了
- **PTA活動（家庭教育学級）での積極的な学び**